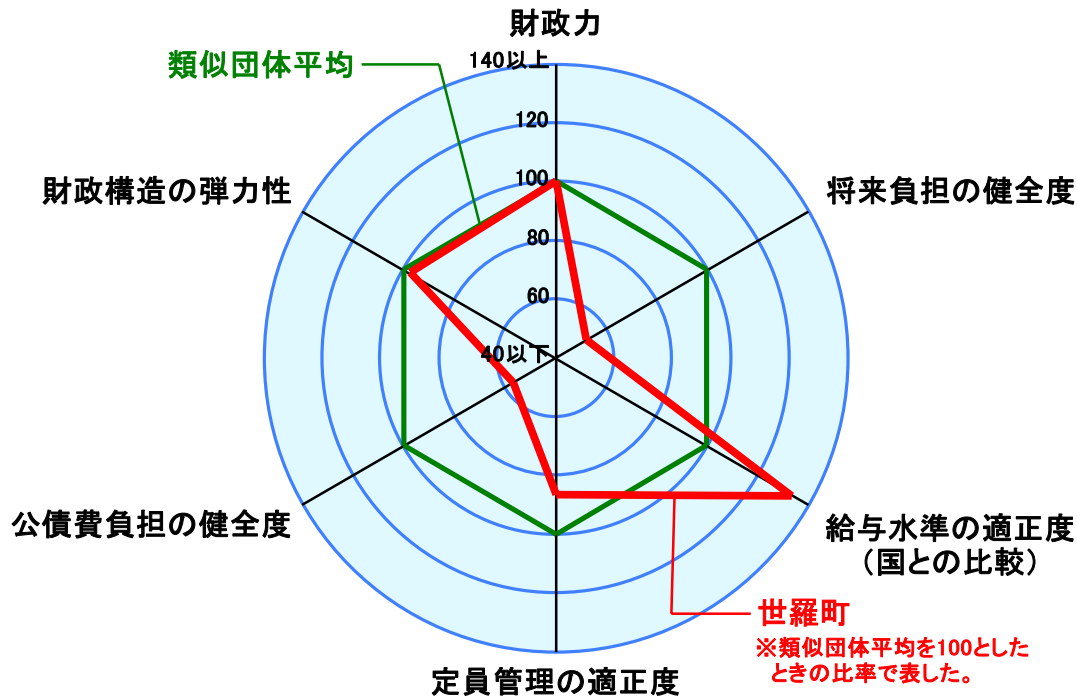
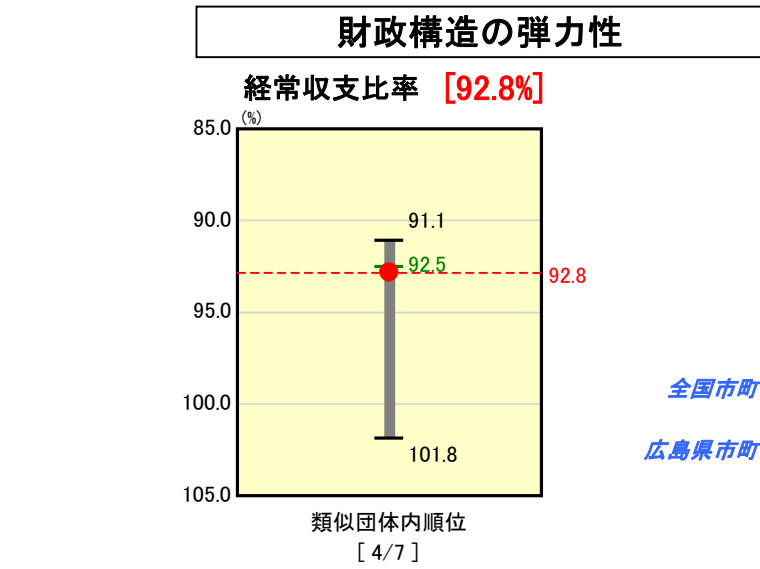
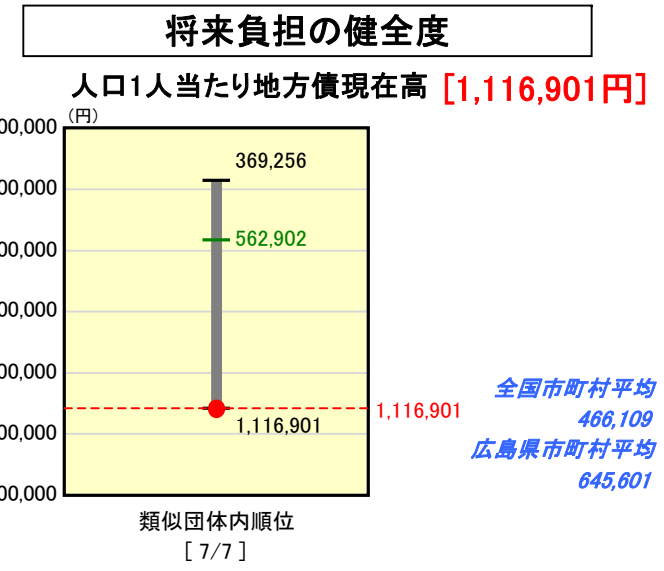
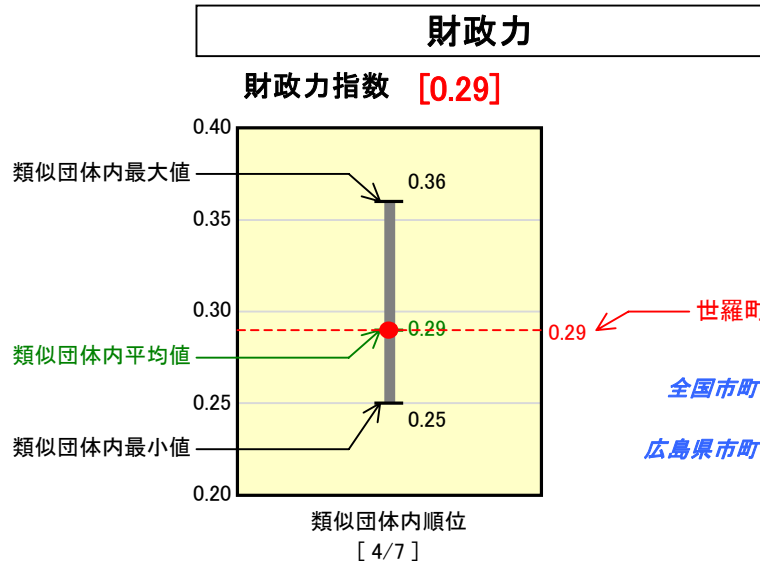


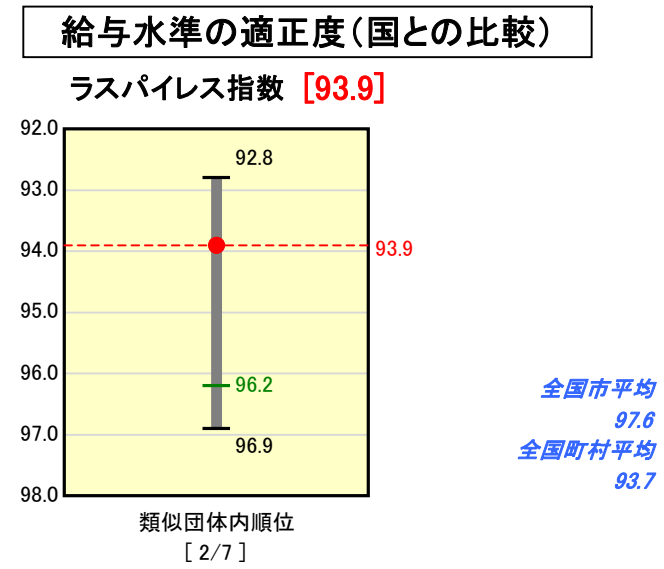
# 市町村財政比較分析表(平成16年度決算)

## 広島県 世羅町

人口	19,657人(H17.3.31現在)
面積	278.29 km <sup>2</sup>
歳入総額	16,893,751千円
歳出総額	16,612,941千円
実質収支	264,125千円



※類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を88のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。



### 分析欄

【財政力指数】  
過疎化が進むと同時に、高齢化の進行等構造的に地域社会基盤が脆弱化し地域の経済力を弱めている。財政基盤強化のため企業誘致や農業振興による税源の涵養等に努めている一方で過疎化や高齢化から要求される施策を行い、また、教育等にも注力する必要があるため財政需要は増大している。構造改革の影響から財政需要額の減少が生じ結果的に財政力指数は類似団体の平均となっている。

【経常収支比率】  
本町の財政構造は歳入のうち地方交付税が42%を、町債が12%占め、依存財源が約75%となっている。自主財源の柱である町税は15%である。義務的経費が歳出の48%を占めるなど弾力性に乏しい状態が続いている。経常収支比率は92.8で類似団体の平均となっている。

【起債制限比率】  
経済対策として発行された町債の償還が巨額となっており、今後数年間は負担が大きいと見込まれる。中期的に公債費は2,400百万円から2,500百万円と見込まれ財政を圧迫する状況である。公債費の早期の圧縮が急務となっており、現在、公債費の抑制に強力に取り組んでいるところであり、この結果起債残高は減少に転じている。今後単年度の町債発行額は1,300百万円から1,400百万円に抑制する方針である。類似団体の中では下位であり、県内比較でも低位にあるため早期に改善を図る。

【人口1人当たり地方債残高】  
人口の減少が激しく(平成2年度比で平成17年度は約▲10%)、一方で社会基盤整備、産業振興に多額の町債を充てたため残高が大きくなっている。類似団体の中では下位であり、起債制限比率の改善にもつながるため計画的に残高の減少を行う。

【ラスパイレス指数】  
給料の削減を行ったため指数は低位にあり、類似団体の中では上位となっている。

【人口1,000人当たり職員数】  
過疎地であり人口集中度が低いため、対人口での職員数が12.01人となっている。また、合併により職員数が増加していることも要因と見られる。県からの権限移譲により福祉事務所設置等が行われるため人的資源の活用がより一層求められている。

